

安全への提言



「リスク」と「夢」

おお 谷 ひで お 雄 †

リスクマネジメントに関する国際標準規格 ISO31000 によれば、「リスク」とは「諸目的に対する不確かさの影響」である。つまり、不確かさが大きいとリスクが大きく、不確かさが小さいとリスクは小さい。

安全工学の立場では、リスクを小さくすることが我々の目標である。それではリスクが小さいことは常に良いことなのであろうか。もちろんリスクを正確に評価することは困難であり、さらにフランク・ナイト¹⁾によれば、不確定なことには、確率によって計測できるものと計測できないものがあり、確率によって計測できるものがリスク、計測できないものが真の不確実性である。ISO のいう不確かさは計測できる不確かさのことを言っているのであろうから、それ以外にナイトの言う不確実性もあるということである。本稿では、このような不確実性は置いておいて、リスクが正確に予測可能であることを前提として議論を行う。

リスクが小さいというのは不確実性が小さい、すなわち将来に起こることがかなり確実に予想できるということである。企業活動においてマーケットが確立しており、需要が予めかなりの精度で確定できて、自社のシェアの変動がほぼない状態で、安定的に予定どおりの生産量が確保できれば利益が上がるという状況であれば、不確実性を小さくして製品を安定供給することが必要である。しかしこれは生産前にほぼ利益が確定しているということであり、企業が急激に衰退することはなく、大きく成長することもない。

新たにマーケットに参入してくるようなベンチャー企業では、このようなリスクの小さな企業活動はできないし、それでは企業の成長は見込めないの、そのようなリスク管理をするべきではないと考えられる。

リスクの大きなことを敢えてやってみないと大儲けはできないということもよく知られていることであり、昔からある投資詐欺など、そのような心理を利用して大金をだまし取るようなことも行われている。

また、ノーベル賞を受賞するような研究には失敗によるもの、すなわちリスクマネジメント的には失敗したことにより大きな発見につながったものがあるということもよく知られている。完璧なリスクマネジメントが行われているということは、不確実性がなく先が見えているということであり、それまでの知識を超えるような新たな発見はないということである。もちろん、理論的に突き詰めて結果を予想した上でその理論の正しさを証明できてノーベル賞が与えられたものもあるが、偶々失敗したことによって大きな発見につながったものがあることも事実である。

ここで、「夢」であるが、我々は子供の頃には将来にいろいろな夢を抱くし、それが悪いことだとは思えない。しかし、成長するにつれ、夢を諦めて現実を見つめるようになる。夢は将来への願望であり、確実性が小さいからこそ夢である。確実に実現できることは夢とは言わない。つまり、我々が夢と言っているのはリスクが大きくなると言っているのと同義である。子供の頃から夢がなくて、将来がほとんど読めているというのは楽しい人生だろうか。

一方で、人生の後半になって、守るべき家族などを抱えながら子供の頃のように大きな夢ばかり追いかけて生きていくというのは周囲から認められるような生き方とは言えないであろう。

つまり、ベンチャー企業や子供などはリスクの大きなこと（大きな夢を持つこと）にためらいを持つ必要はないし、それが成長につながる。一方で、大企業や大人になってからリスクの大きなこと（大きな夢を持つこと）は避けた方が良く思う。

もちろん、人命にかかわるようなリスクは小さくしなければならぬ。しかし、どのような場合でもリスクを小さくすることが良いことではなく、状況に応じたりスクマネジメントが必要ではないかということである。

参 考 文 献

† 横浜国立大学大学院 環境情報研究院：〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-7

1) フランク・ナイト、リスク、不確実性および利潤、文雅堂銀行研究社 (1959)